

2017/2/6

### (日々雑感 3)



昨日、神さまになろうとしていたと書きましたが、正確ではありませんでした。そう書いた方が皆さんに分かりやすいと思って書いたのですが、正しくは「神さまに選ばれた存在なのだ勝手に思い込んでしまっていた」です。

生まれてから8歳までに、死の瀬戸際まで行ったことが2回あり、それを切り抜けた上に、以前只野六三の「こびとの囁き」で書いた、小学四年生の時に「いずれおまえもいつかは死ぬんだぞ」という声を頭の中で耳にして以来、どういう理屈の繋がりなのかはよく分からないのですが、殆ど無意識に

「ひょっとして、神さまに目を掛けられているのかも」と全く勝手に思い込んでしまったようです。

その頃は、もちろんそんな言葉は知るよしもないのですが、今になって大人の言い回しをすれば「選民思想」「選民意識」といいますか、超弩級の「エリート意識」とでもいいますか、そんなものに頭の中核部分を支配、または浸食されてしまったようなのです。

それは、大人になって幾多の困難に遭い、それを克服すればするほど、その意識群は知らず知らずのうちに強固なものになって抜き差しがたい状態を招いていったようです。

うつ病、離婚、リストラ降格、家族離散や複数回にわたる大病等々。

それらに襲われる度に「目を掛けられているからそうなんだ」と思い、「この苦しみには絶対深く且つ計り知れない意味がある」と思いなし、そう思っている自分自身も大いなる存在意義があるのだと思い込んだようです。

ですから、苦難苦労は、忌むべきものではなく、むしろ名誉ある勲章として捉えていたのだらうと思います。

完全なる倒錯の世界です。

厳しい状況を乗り越えるために一時「物事を良い方に考える」まではいいのですが、その思考が常態化すると、見える景色が違ってきます。あまつさえ「苦勞困難にこそ意味がある」

を周囲に押しつけ始めるとますます不可解なことになっていきます  
恐らくこの、皆さんとは正反対の価値観の無言の押しつけと、今ひとつは先に述べた選民思想からくる本人の自覚のないまま無意識にはあっても、出会う人をことごとく選別、切り捨てていた態度、あるいはその雰囲気によって、皆さんはぼくを避けていたのではないだろうかと推測するに至りました。

何のことはない、元をたどれば、自分の持っていた並外れた自惚れと自信過剰とナルシズムの極地がなせる技だったのだろうと思います。

恐らくそれが真因になって家族をミスリードし、壊したのではないかと今は思うに至った次第です。

家族はそれこそ、複雑な経過を経て、幾分曲がりくねった表現方法であったかもしれませんが、「常人の声」を挙げ続けていたのかもしれませんが。

父が、夫が「殉教者」（もどきかかぶれ）ではたまりませんから。

「自分たちもそうなれ」と無言の内に言われたのでは、かないませんから。

しかし、そこまで類推し、反省をしながらも、今後どうしたら良いのか？その答えは現時点では、全く見つかっておりません。

今のところ全く当てはまらない状態なのです。今は、その力がないのです。

しかし、苦難苦労に「神さまの特別な肝いれ」などこれっばかりもないことが分かった今、早いところこの倒錯した価値観や美意識にけりをつけて「普通の人」に戻り、少なくとも自分の側は直した上で、家族ともう一度向き合うことを試みたいとは思っております。まだ方法は、さっぱりですが。

2017/2/5

## （日々雑感 2）



もういいや、っていう気がしてきました。

伝えるとか教えるとかひとの役に立つとか、そういう辛気くさいことは。

そう言えば、相談に行った公的機関、正直に言うと警察の生活安全課の捜査員が

「あなた、もっと自分の幸せということ考えた方が良いですよ。もうふたりともいい歳し

た成人なんだから。同居している人も同居していた人も、ほっとけば良いんですよ。もう親の責任も、夫の責任も全くないんですよ」

と言っていましたっけ。

「自分の幸せ？」

確かにそんなことあまり考えたことはありませんでした。何故だか。

それで、その時そう言われて、戸惑ってしまったのです。

「何をしたら良いんだろう？」

そして

「今まで何をしていたんだろう？」

それから

「人の幸せが自分の幸せ？人の幸せばかりを乞い願ってきた？」

で、

「それって何？偉人にでもなろうとしたんだろうか？偉人とか、あろう事か神さまとか？」  
ちょっと、ぞっとしました。実は以前にもそんな疑念が自分の中に生まれて、書き物にしたのですが、さすがにそれは破り捨てたんですが。

「マジだったかも」

と思うと、やおら恥ずかしくなり、気持ち悪くなり、恐れ多くなり、そうして最後に馬鹿臭くなり、

伝えるとか教えるとか人の役に立つとかを放り出したくなったのです。

「阿呆くさっ！！」

止め、止め、即刻止め！！

それが、冒頭の言葉でした。

そうして、これ以降どうするかというと、一言で言えば「凡俗に返り」たいと思います。霞ではなくて肉を食らいます。犬や子供ではなくおなごはんを愛でます。社会事業より営利事業を柱にします。色と欲の世界に行きます。色と欲の世界で生きます。

「結構毛だらけ猫灰だらけ、解脱なんかは、糞だらけ」

お粗末！！

取りあえず、今日はここまでです。

#### 【お知らせ】

と言うわけで、以降は社会事業のさくらさく・こらぼ社の HP ではなくて、この手のお話は個人的なサイト、只野六三の HP 中の「随想・雑文」コーナーで書くことにしようと思います。

HP は以下となりますのでよろしく願いいたします。

<http://tadamutsu.com>

です。

あるいは下記の只野六三の HP (外部リンク) 参照をお願いいたします。  
なおさくこらの話は今まで通り、さくらさく・こらぼ社の HP で書かさせて」頂きます。

2017/2/4

### (日々雑感 1)



サバイバル術なんか書いてもみんなどん引きするだけだ。だったら苦しい胸の内だけでも聞いてもらえないかと方向転換をして書いてみたら更にどん引きされてしまい、昨夜はもう止めた！とばかりにホームページをクローズドしてふて寝してしまいましたが、やはり書かないと欲求不満がたまるようで、それなら思いつくことを取りあえずつらつら、にでも書いてみようかなと思うようになりました。

題して「日々雑感」

ぼくのことですから、またぞろ難しいことを言い始めかもしれませんが、その時は、ブックマークから外してくださいね。

ところで、いきなりですが、日々の暮らしのベースが、閑静な住宅街にある、ん LDK の広い家から、一夜にして里山だらけの田舎での 1K で 6 畳一間、家賃 25000 円のアパートで暮らすことになったとしたら皆さんはどう感じますか？

都落ち感、落ちぶれ感で惨めさいっぱい感とか？お先まっ暗、目の前まっ暗の絶望感？「そうはなりたくない、ああまではなりたくない」感？

実はぼく、それに当てはまってしまったんです。

でも、強がりを行っているわけではないんですが、あんまり気になっていないんです。周りからどう見られるかも含めて。

「どうして？」

と聞かれれば、したいことと好きなことがあって、それを毎日出来ることに変わりがないからなんです。

したいことや好きなことは皆さんにもあると思いますが、ぼくの場合書くことなので、机とパソコンさえあれば、どのみち家の大きさはそれほど関係ないからです。

確かに、もし自分が、家の大きさや、どこの地域に住んでいるかとか車のブランドがとても大切なような人間だったら、さぞかし落胆し、憔悴し、再起不能な気持ちにもなるでしょうが、幸いそういったタイプの人種ではなかったのも、そんな風にお気楽に考えられるのかもしれない。

「おまえ、少しおかしいんじゃないの？」

と訊かれそうですが、ここで敢えて言うなら、人里でのサバイバル術の大根底は、なんといってもどうやったら絶望しないか？そうして、どうやったら楽しめるところまでもっていきけるか？を見つけることに他ならない気がします。

サバイバルと聞くと、過酷とか危険とか、そんなイメージをお持ちかもしれませんが、少なくとも人里でのサバイバルは、そういった軸ではないと思います。

あ、またまた書いてしまいました。

またぞろ、嫌われそうなので、今日はこの辺にしておきますね。

と、いいつつ、最後に一言。

部屋、こざっぱりしているでしょう？あんまり悲壮感、ないでしょう？

都心近くだととっても高いので、安いところ探していたら、うんと田舎になっちゃったんですが、これで 25000 円。割と満足しています。エアコンもバスタイレ、キッチンも有りです。

2017/2/3

(ぼくの節分 節を分ける日)

# 節分

pixta.jp - 19603081

手術を終えて、サバイバル読本を書くのを止めることにしました。

無意味、というより、こんなことを書けば書くほど、ますます皆さんから離れていくことに

気がついたからです。今よりもっともっと自分が訳の分からない人間になっていく気がしました。

確かに、サバイバルの術は、五万と獲得してきたような気がします。書こうとすればいくらでも書ける気がします。現にいくつか下書きもしました。

しかし、サバイバルすればするほど、例えば、今回の、医者すらも二回に分けた方が良いのではと言うほど、想定外の長きに渡る手術を乗り越えた時点で、もうそんな世界、誰にも分からないよな。そうして「もういい加減に止めてよ、そんな話。普通に暮らしている私たちにするの！」という皆さんの悲鳴が聞こえたような気がしたのです。

おそらくそれは、自分の家族達の声でもあったような。

子より親の方が、あるいは妻より夫の方が完全に自立し、何でも独りで出来てしまうだけならまだしも、仮にもの喩えの話ですが、子より親の方が、あるいは妻より夫の方が「まるで子供そのままに汚れないもの」であった場合、一体子や妻はどうすれば良いのか？

人並み外れてちゃんとした大人、成人である。にもかかわらず、今まで幾多のことがあったにもかかわらず、あろうことかなにひとつ「汚れないまま」「汚れたこと一つしないまま」それじゃ子や妻はどうすれば良いのか？

「お願いだから、少しはずるくなってよ。汚いことをしてよ。でないと、自分らは何も出来ないよ。自分たちが大人にもなれず、かといって子供のように汚れないわけでもない。手の打ちようがないから、お願いだから墮落の方だけでもして！！」

ひょっとしたら、その反動で、汚いことを始めたのではないのか？薄汚れた大人であってくれた方がどれほど助かるか。乗り越え易いか！御しやすいか！

「太刀打ちできない。しかも自分たちが薄汚れた存在にしか思えないので、やけくその反動として、汚いことを始めたんだ」

家族が

「本音を出してよ、本音で話してよ」

と何度も言っていたのは、実は僕が本音（本気）で話していることを知りながら、二人の言う本音の意味は「薄汚れたところがあることを見せてよ、うそでも良いから汚いところを見せてよ、立派じゃないダメ人間なところを見せてよ！でないと、自分らは浮かばれないから！！」

ということだったのではないか？なぜなら本音とは実は、自分のわがまま、身勝手、汚濁、貪欲のことだと心底知っているから。自分たちの場合。

しかし、僕と家族の間の本音には決定的な差があった。そのため、僕の言うところの本音を否定するために、打ち砕くために、もちろん上述の前提があつての話ですが、全く無意識の内にその反動が更に進んで

「汚れていた方が、優れているんだ。価値があるんだ。清いだけじゃダメなんだ。カウンターとして、正反対の濁が必要なんだ。それを証明するために、敢えて濁を体現してるんだ、俺たちは！！くそ親父！！」

あるいは、僕が自分に厳しすぎるというその意味は

「少しは甘くなってよ。手抜きしてよ。だから甘えたり、寄りかかったり、手抜きしたりしているんだ、それに気づいてもらうために敢えて、その反動で、無意識に」

ところで、決定的に家族と違っている「僕の本音」とは一体、何なのでしょう？

以前から不思議に思っていたことがあります。しかも最近とみに。

それは、成人男女は寄ってこない、あるいは寄ってきても直ぐに離れるのに対して、気のせいか、犬や幼子や枯れたばあさんは寄ってくる。不思議でした。

それは、ひょっとすると、悪い意味で自分が「子供」だったからなのかもしれないと思いました。

清流に不魚住（うおすまず）

清濁を併せのむ

これからどうすれば良いのか、やはりまた皆目分かりませんが、進んでいる方向が間違っていると思いますので、なんとか別の答えを探そうと思います。

しかし、こう書いていること自体、更に更々、ますます皆さんを混乱させているだけのような気もして、とても不安になってしまいます。

こういう意味不明の存在は、早いところ死んでしまった方が良いような気がしないでもありません。生まれて間もないある正月の三が日、白泡を吹いた僕を抱えて裸足で病院を探し回った両親が、幸いにも開業している医院を見つけて、間一髪命を取り留めた話を昔、聞かされましたが、ひょっとしたらその医院が開いていなかった方が良かったのかも、と思ったりもします。

今日は節分。いい加減に節を分けたいと思います。

2017/2/1

## （サバイバル読本 2）



基本的にサバイバルなのだと思います。

どうやったら生き残れるか？どうやったら生き抜けるか？というより、明日もまたふつうに生きていられるか？です。

何でもないことのようにですが、結構大変なのです。別に僕の話ではなくて、みなさんも同じです。

二十歳の人の方が六十歳のひとより寿命が長いとは限らないし、今日がハッピーだから明日もハッピーだとは限らないのは誰しも同じなのだと思います。

要するに明日のことは分からない。

1/19の朝に、まさか1/21に着の身着のままで家を出て、姿を隠すことになろうとは全く思いもしませんでした。

あなたの人を見ると気の毒だ、可哀想だと思う気持ちが同居していた家族の過度の依存心や寄りかかりを生んでいる。家族はそれを巧みに利用している。それを止めて、家族の依存心や寄りかかりを断ち切り、独り立ちをさせるには、あなたがその甘えを手助けしないようにするしかない。結局最後は自分でするしかないと気づかせることだ。そうするのに一番良いのはあなたが死ぬことだが、それはもちろん出来ません。だとしたら、死んだと同じ効果を出す方法はひとつしかありません。あなたが本人達の前から消えてしまうことです。それしかありません。そうするのが本人達のためです。これは危険な賭けですが、やらないよりはましだと思います。

と、相談を持ちかけたある公的機関に言われ、その建屋を出たときから、流浪の身となりました。

流浪の身となってから、まず日々考え続けていた、本人達のことを考えないようにしました。考えると、また何かしてしまい、結果それが手助けになってしまうからです。無意識の手助け。

それで、そうならないために、流浪のみでありながら、公職を受け（詳細は省きます）、事業の再立ち上げに取りかかり、ブログを再開しました。頭から家族を追い払うためです。独り立ちさせるには、まず忘れることしかないと思ったのです。

幸い、若い頃から全国を一人旅し、海外出張も上司の同行しない、担当二人旅もし、独り暮らしも結構長かったので、サバイバルの基本的な技術は持っていました。

あと、加えて言えば、インターネットの普及です。これこそが、優秀なサバイバルナイフなのです。

今日は手術日なのでもうこれ以上書けませんが、回復したら、後々、少しずつ、思いつくままに具体的なサバイバル方法を書いてみようかな？と思っています。なるだけ、皆さんにも使える日常的で具体的なことを。

またまた蛇足ですが、お伊勢さん参りの後の、考え方の切り替えも、実はサバイバル技術の一例なのです。悪いことを、前向きになる燃料、原資、トリガーにするという。

では。



2017/1/31

## (サバイバル読本 1)



(サバイバル読本)

とにかくそれまでの、あらん限りに立て続けで起きた災厄を祓うためにお伊勢さんと松尾観音寺さまにお参りして以来、御難続きで弱り目に祟り目(たたりめ)、更に更々、これでもかこれでもかと次から次への災厄到来の日々です。

一体何のためにわざわざ三重県くんだりまで、大枚と時間を使って行ってきたのか？

そう言えばかつて、あるひともお伊勢さん参りに行って返ってきた途端、超弩級の災厄に見舞われた話を聞いたことがあり、やはり自分もその伝かと思っておりました。

しかし、一方では、神さま、龍神様(松尾観音寺)が、かようなことをなされるはずがないとの思いもあり、これは一体どうしたことなのだろうとあれこれ考えておりましたが、本日只今、あることに思い当たりました。それは、

「龍神様を含め、神さまというものは、お参りした者が思い描いているような形では、その願いを叶えてくれないのではないのか？ 願い事の成就を表してくれないのではないのか？ ひょっとしたら、全く別の形で現して、さてもおぬしは気づくかな？ と問いかけているのではないのか」

と。

そうして更に

「そうそう言われたままに願い事を叶えるほど神さまは甘くはないのではないのか？ 何か願い事の軽重に比例した小問題から大問題までをそれぞれに与えて、さあ、解いてみよ！ 乗り越えてみよ！ とおっしゃっているのではないのか？ そうして、それが解けた、あるいは乗り越えた暁に、別の形かもしれない何かで願い事を満願成就してくださるのでは？」

と。

そうだとすれば「今日も元気で、みんな元気で」とお願いした、その願い事は、自分の元気はともかく「みんな元気で」などというとてつもない高いハードルを神さまにお願いしたのだから、これはもう途轍もない大問題を与えてくれているのではないかと思いはじめました。だとすれば、理屈が合います。

この難行苦行に特段の意味があるかどうかは定かではありませんが、少なくとも仕組みと

しては理解できます。

「なるほど、なるほど！」

取りあえず、直近の日々を生き抜くために、そう思うことにいたしました。

蛇足ですが、明日、さすらいの身ながら、当初の地元病院から予定を変えた逗留地の病院に入院の上、再度の手術をいたします。

また、無事に帰ってきます。その節はまた、ということで、お願い申し上げます。